

特別展

廃墟とイメージ

西洋風景画には、崩れかけた廃墟や古代遺跡がモチーフとして描かれることがあります。それは古代文明という古典の再発見であるとともに、自然に埋もれて朽ちてゆく巨大な人工物は、栄華の儚さ、人間の無力さを象徴しています。日本では、湿潤な環境下において、木造建築が何百年も朽ちるままに遺される例はほとんどありませんが、災害や戦乱、家の没落により家屋や寺社が荒廃したという記録を文学や美術にみることができます。

鎌倉幕府の要職を務めた北条実時(1224~76)は、大陸の文物を舶載し、金沢文庫に和漢の書物を収めました。鎌倉幕府の滅亡とともに主を失った金沢文庫は朽ち、書物の多くは散逸してしまいましたが、「金沢文庫」印が捺された書物は後世の人々の垂涎的となります。一族の滅亡後も多くの旅人がこの地を訪れ、在りし日の金沢北条氏の栄華に思いを馳せました。つまり、「廃墟」は復興のための原動力となるとともに、新たな文化を生成する場としても機能してゆくののです。

本展では、日本における「廃墟」の表徴とその歴史を国宝・重要文化財など約100点からたどり、鎌倉武士が栄華を誇った故地から、「廃墟」の文化史について考えます。



a

b



c



d

f



d



e

- a. 重要文化財 二河白道図 鎌倉時代 香雪美術館【前期】
- b. 国宝 六道絵(人道不浄相) 鎌倉時代 聖衆來迎寺【前期】
- c. 神奈川県指定文化財 一遍上人縁起絵 卷二(塩籠) 南北朝時代 清浄光寺【後期】
- d. 国宝 病草紙(歯槽膿漏の男) 平安時代 京都国立博物館【後期】
- e. 重要文化財 青磁壺 元時代 称名寺
- f. 狩野山楽落款 西湖図屏風(左隻) 江戸時代 サントリー美術館【前期】
- g. 重要文化財 紺紙金字法華経 卷二(部分) 平安時代 本興寺【後期】

【関連行事】(事前申込制・各講座とも参加には当日の観覧料が別途必要)

クロストーク

- ① 11月12日(日)「東西美術における「廃墟」を読み解く」
山本聡美氏(早稲田大学教授) × 佐藤直樹氏(東京藝術大学教授)

連続講座「廃墟」と古典文学(全5回・有料)

- ② 10月15日(日)「廃墟を見つめる西行」
渡邊裕美子氏(立正大学教授)
- ③ 10月22日(日)
「『源氏物語』にみえる廃墟的な場—末摘花の邸宅を中心に—」
陣野英則氏(早稲田大学教授)
- ④ 11月4日(土)「廃墟と時間—『方丈記』と『徒然草』から—」
木下華子氏(東京大学大学院准教授)
- ⑤ 11月19日(日)「五山文学における廃墟」
堀川貴司氏(慶應義塾大学斯道文庫教授)
- ⑥ 11月26日(日)「能に描かれた廃墟」
山中玲子氏(法政大学能楽研究所教授)

金沢文庫月例講座

- ⑦ 9月30日(土)「廃墟とイメージ展 鑑賞講座」
梅沢 恵(当文庫主任学芸員)
- ⑧ 11月23日(木・祝)「中世鎌倉 復興と再生の風景—安達氏周辺をたがかりに—」
貫井裕恵(当文庫学芸員)

- * 時間 ①~⑥は 13:30~15:30、⑦~⑧は 13:30~15:00
- * 会場 地下大会議室
- * 定員 各講座 60名
(応募多数の場合は抽選。連続講座は5回セットでお申し込みの方を優先します)
- * 参加費 ②~⑥は各回 1,000円、5回セット 5,000円
(5回セットでお申し込みの方には招待券2枚進呈)
- ①、⑦、⑧は無料、ただし当日の観覧料が別途必要

【申込方法】 金沢文庫webサイト「講座申込フォーム」、または往復はがき(お一人様1講座1通まで。ただし連続講座を5回セットおよび複数回申し込み場合は1通で可)に、講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、①は10月26日、②~⑥は9月28日、⑦は9月14日、⑧は11月7日必着でお申し込みください。



g



京急線「金沢文庫」駅東口下車、徒歩12分(品川駅より快特で33分、横浜駅より16分)
シーサイドライン「海の公園南口」駅下車、徒歩10分(JR根岸線「新杉田」駅接続)

神奈川県立金沢文庫

Kanagawa Prefectural Kanazawa-Bunko Museum
〒236-0015 神奈川県横浜市金沢区金沢町142 TEL 045-701-9069 FAX 045-788-1060
<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawabunko/kanazawa.htm>

次回展示
特別展 中世寺院の書物—聖教とのかたち
2023年12月1日(金)~2024年1月21日(日)